



## 前立腺がんについて

総合病院 土浦協同病院

泌尿器科部長 医師 酒井 康之

司会者：前立腺とは何ですか？

酒井：おしっこがたまる膀胱という臓器がおなかの下の方にありますが、膀胱におしっこがたまって、出るときに尿道という管を通ります。男性の場合、尿道の最初の部分の外側に、尿道を取り巻くように栗の実のような形・大きさをした臓器があります。これを前立腺といいます。精液の一部をつくる臓器です。

司会者：前立腺癌とは何ですか？

酒井：前立腺から発生した悪性腫瘍すなわち癌のことです。

司会者：癌だから怖いんですね？

酒井：日本では年間約10,000人以上の方が前立腺癌で亡くなっています。男性の100人中1人強は前立腺癌で亡くなる計算です。そういう意味で怖い病気といえます。ただし、最近では前立腺癌を発見する方法が進歩して、多くの方は転移のない、早期癌の状態で発見されています。早期に発見された前立腺癌の方はほとんどが治療で治ります。

司会者：早期に前立腺癌を見つけるためにはどうしたらいいですか？

酒井：最近では多くの自治体で前立腺がん検診をやっていると思いますので、自治体から検診のお知らせがあれば受けてみるというのが一つの方法です。もともと若い方には少ない癌であり、検診の対象になるのは50歳以上の方が多いです。検診は採血をして、腫瘍マーカーという、ある特定の物質（我々はPSAと呼んでいます）の血液中濃度を測定します。PSAという物質が一定の濃度以上の場合には、精密検査を受けてくださいという案内が後ほど来るといいます。前立腺がん検診をやっていない自治体でも、人間ドックを受けてみたり、またはかかりつけのお医者さんに相談してみると調べてくれることもあると思います。

司会者：精密検査ってどこでどんなことをやるのですか？

**酒 井**：多くの場合は、病院またはクリニックで泌尿器科医に診てもらうことになると思います。一般的には問診、それから診察としてお尻の穴から指を入れて前立腺の硬さを調べる直腸診、さらにはもう一度採血をしてPSAを再測定したりします。ごく最近ではMRIという、前立腺の内部構造を詳しく調べる画像を撮る検査が役に立つことが分かってきており、前立腺のMRIを撮ることが多くなっていると思います。前立腺がんの可能性が高ければ、前立腺生検といって、前立腺の中のがんが疑わしい部分を一部採取する検査を行います。これは虫歯を抜くときと同じような局所麻酔を使う場合があります。検査の後に熱が出たりする場合がありますので短期間入院して行うことが多いと思います。

**司会者**：精密検査で前立腺癌と言われた場合、どうしたらいいですか？

**酒 井**：まずは落ち着いて、担当医師の説明を聞いてください。先ほどお話ししたように、最近みつかると前立腺がんの多くは転移がない状態で見つかりますが、実際には転移がないかどうか調べる検査、CTとか骨シンチという画像を撮る検査を行うことが多いです。別の一つの画像を撮る検査だけで済ませたりする場合もあると思います。

**司会者**：前立腺癌で転移はないと言われましたが、どうしたらいいのでしょうか？

**酒 井**：転移がない前立腺癌の場合は、私たちはリスク分類ということを行って、その分類に基づいて治療方針を患者さんと相談していくことが多いです。先ほど申し上げたPSAの値、検査で採取した前立腺癌の悪性度（これは顕微鏡で見た癌のいわば顔つきを病理医と呼ばれる専門医が数値で判定します）、さらに前立腺内での癌の広がり、これらを基に、低リスク、中間リスク、高リスクに分けるのがリスク分類です。前立腺癌の場合は、癌の進行度を表す、よくいわれる病期とかステージという名称はあまり一般的ではありません。まずは転移があるかないかを診断し、転移がなければリスク分類は何に値するかを診断し、それに基づいて治療方針をいくつか提示させていただくことになります。

**司会者**：手術がいいと言われたのですが、心配です。

**酒 井**：転移がない前立腺癌で、中間リスクや高リスクの一部は手術が治療選択肢の一つになります。手術も最近ではロボットを用いて、負担を軽くできる場合が多くなってきましたので、担当医師の説明をよく聞いてみてください。ただし、一般に75歳より上のご高齢の方、持病の多い方などは、やはりどうしても負担が大きくなりますので、そこまで無理することはないかもしれません。その他の治療選択肢もあるので安心してください。前立腺がんの手術で心配なのは手術の後におしっこを膀胱にためられない、尿もれがおこることだと思います。実際に手術が終わり退院した直後はなかなかおしっこをためられずに

不安になりますが、ほとんどの方は時間とともに改善します。

**司会者：**放射線はどうでしょうか？

**酒 井：**放射線照射も手術と同じくらいよく治るとされています。入院せずに通院で治療することが多く、尿もれも少ないとされています。いいことだらけな気もしますが、時間がたつとおしっこに血が混じってきたり、お通じに血が混じったりすることがまれにあり、担当医師とよく相談して決めるといいと思います。

**司会者：**症状も何もなく、検診と精密検査を受けて前立腺癌だから治療が必要と言われたのですが、本当に治療を受けないとだめですか？

**酒 井：**実は転移がない前立腺癌の多くは進行が遅いとされています。転移がなくて、低リスクに分類された前立腺がんの方とか、75歳以上のご高齢の方、重い持病を持っている方はすぐに治療を受けずに経過をみたほうがいい場合があります。これも担当医師とよく相談して決めてください。

**司会者：**前立腺癌で転移があると言われました。治るのでしょうか？

**酒 井：**残念ながら転移のある前立腺がんは現在の医療をもってしても、中々治らないのが現状です。ただし、転移がある前立腺がんでも多くの場合は、内分泌療法といって、男性ホルモンの働きを抑える治療を行い、前立腺がんを長い期間にわたって進行しないようにコントロールできることが多いです。最近は色々な種類の新しい薬が出てきました。担当医師とよく相談して自分にとって最適な治療方法を決めていかれるといいと思います。

**司会者：**最後に、今、新型コロナウイルスが流行っていますが、前立腺癌の検診は受けた方がいいのでしょうか？

**酒 井：**難しい問題です。多くの病院で今年（令和2年）の4月から6月くらいまですべての検診が止まりました。もともと前立腺がんはゆっくりとしか進行しないことが多いので、慌てる必要はありませんが、普通に検診を受けていれば進行する前に見つかったのと思われる方も、残念ながら新型コロナウイルスが流行る前から一定数いらっしゃいました。現時点では多くの病院がとても気を付けて検診を再開しており、検診を受け、仮に精密検査や治療を受けることで新型コロナウイルスにかかる可能性はとても低いと思います。そもそも健康診断を受けようという気持ちのある方々は、ご自身の健康にとっても気を使っており、もっとも新型コロナウイルスにかかりにくい方々ともいえると思います。強制ではありませんので、最後はご自分の意志で決めることが大事だと思います。

令和2年12月15日（火）、30日（水）放送